

牧師室から（2020. 5. 31）

昨日（5月25日）首都圏においても緊急事態宣言が解除された。先日アメリカでも宗教的集会は不要不急ではないとの大統領の見解があった。しかしそれは信仰的考えではなく、支持層におもねたポピュリストの思惑であることは明白である。私どももいつ普通の礼拝を再開できるかということを考えている。勿論第2波、第3波が襲う可能性に対する慎重論はある。しかしそのリスクに耐えうる胆力も必要ではないだろうか。政府が主に経済的側面からの判断によって解除に踏み出すのとは別に、教会は本来なすべきことをなすという観点から再開を考えるものである。教会はそれ自体集会であるので、できるだけ集まることを避けるというのは活動の障害となる。コロナ禍がエポックメイキングな出来事となるかもしれない。それならば、ポストコロナ時代の礼拝や教会の在り方、活動を共に模索していきたい。二千余年前に聖霊によって一つとなり教会ができて、今なお存続して、これからも在り続けることを確信しつつ。

「人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる。」（マタイによる福音書4章4節）

鈴木淳一